

二年間に三倍以上に増した。其事實は誰が保証して呉れるのであるか。故に私は今日の公館制度は、梅を去るに云ふやうなそんな可笑しい無理は受取れない。況んや此方から性慾問題を研究する時に、私は夫れを以て眞面目に受取れない。さうしても都會には公館制度が要るに云ふ事は受取れない。

大きな大きな女郎屋を建て、其脇に中學校を立て、其側に小ギケな少學校を建て、「流弊の貞操を守るべし」とそんな間違つた倫理を教へるよりも、何故今日の公館制度を破壊せぬか？其倫理學を教へなければ、先づ其中學校の講の大きな高城を破壊せよ。私は今日の矛盾した所の倫理學や其修身書には何等の價值を與へないものであります。

けれども、言ふでしやう「矢張り君、さう言つても、是は矢張り君……」
 「無理筋なしに花柳病の防止であるに云ふ。」
 「先程申しました通り、日本の國のこの統計を棄けましたも、段々悪くなつて居る。私は茲に持つて参りました。是は日本の國の梅毒患者の増へて行く所の統計であり

ます。千九百四年から後々増へて居ります。即ち明治三十七年、僅かに壯丁千人に達して十二人二厘であつたものが、段々増加して來た。三十八年には十五人五分八厘、三十九年には十九人五分六厘、四十年には二十一人七分四厘、四十一年には二十二人三分九厘、四十二年には二十四人三分五厘、大正元年には二十七人三分九厘、斯うなつて居る。

一體ここに日本の國の公館制度なるものが、何かの役に立つて居るか、矢張り吾々が愛する所の青年が其間違つた制度の爲の教育される、墮落しなくても宜いものを墮落する様に教へて呉れる。故に私は今日の公館制度なるものは日本の國の爲だ、衛生に仕方が無いに云ふ事に向つて、何處に其證據があるか云ふ事を詰問したい。

公館制

然るに英國に於ては千八百八十四年に、有名なマヨセフセン、パトラー
 一云ふ婦人が二十五年の努力に依つて此公館制度を英國から撤廢した
 結果英國の梅毒患者は著しく減退したのである。英國は壯丁を斯様な誤つたる制
 度には迷はされて墮落する必要が無くなつたのである。公館を撤廢するに云ふ事は其